



## 統括施設長よりごあいさつ

らくじ会グループ

統括施設長 森山 憲克



深い秋の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

社会福祉法人 楽慈会が平成十三年十一月に法人認可され、ケアハウスらくじ苑を南京終の地に開設し、本年を持ちまして十三年目を迎えることとなりました。これも皆様のご支援あってこそその結果と心よりお礼申し上げます。

これからも入居者様・利用者様からのご意見を大切に、らくじ会グループのテーマであります『この苑に出会ったすべての方が、この苑に出会えて良かったと思っただけでいい』をめざし、『自宅でお終末期を迎えたい』という地域のニーズにお応えするべく、地域包括ケアに取り組んでまいります。

南京終地域にありますらくじ会グループの施設は、在宅サービスを中心に展開しております。『自宅でお終末期を迎えたい』という地域のニーズにお応えするべく、地域包括ケアに取り組んでまいります。

らくじ会グループでは、多様性のある各施設の特徴を生かし、その他にも柔軟で極め細やかな各種サービスの提供を進めております。さらに各施設間の連携を密にし、内容を深めてまいります。行き届かない点がございましたら、いつでもご連絡いただきたく存じます。その事が、らくじ会グループのサービスの質を高めていく事に繋がると捉えております。今後とも、らくじ苑への変わらぬご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

### 目次

- 統括施設長ごあいさつ ..... 1
- ケアハウスらくじ苑・デイサービスセンターらくじ苑 ..... 2
- 施設内行事について ..... 3
- 阿波踊りへの参加 ..... 4～5
- らくじ会グループの取り組み ..... 6～7
- らくじ会グループの福利厚生紹介 ..... 8

# らくじ会グループ 施設紹介

## ケアハウス らくじ苑

『ケアハウスらくじ苑』は、JR京終駅より徒歩十分の所に平成十四年十月一日より開設しています。

ケアハウスのらくじ苑の事業内容は、ケアハウス・デイサービス・配食サービスです。

ケアハウスとは、年齢六十歳以上で、常時介護が必要ではなく、個室で自立生活が可能な方に同居頂く施設です。

『ケアハウスらくじ苑』では、自立した自分らしい生活を送って頂けるよう、入居者様の『生きがい』や『ゆとり』に満ちた生活を、送って頂く事を目指しています。



『ケアハウスらくじ苑』の入居者様は自由に出外されたり、お友達と談笑されたりと、ゆったりと毎日をお過ごしされています。春には花見ドライブに、夏は納涼祭、秋には紅葉遠足、冬には忘



年会とイベントが沢山あります。また、毎週塗り絵教室や、英語朗読教室、カラオケ広場などの教室事もあります。

屋上には庭園があり、奈良市内を一望する事が出来ます。バラや苺の栽培も行っており朝早くから水やりをしてくださる入居者様もおられます。癒しの空間となっています。

入浴は、一日の満足を実感して頂けるよう、くつろぎやすく、ゆったりと入っていただけの総檜作りの大浴場です。



また『デイサービスセンター らくじ苑』が併設されており、定員五十五名の賑やかで笑いの絶えない空間です。

当苑は、年中無休で営業しており、時間短縮、延長サービス、随時送迎・随時入浴など、利用者様のご希望に添ったサービス提供が可能です。希望により急なお泊りも可能ですので本人様本意のサービスを提供致します。

また、らくじクリニック受診後にデイサービスを利用することが可能で、その際無料で送迎を行っております。

日中は選択レクリエーションがあり、運動・創作・カラオケの中から選択して楽しく過ごされています。毎月遠足・外食・買物ツアー・ドライブ等の行事があります。

最後に『配食サービスらくじ苑』は、奈良市の委託事業として担当し、毎週月～金曜日に和洋中のバラエティ豊富な昼食をご提供。また利用者様の安否確認も目的として配食しています。相談に応じて 変更も可能で、週に1回～5回お客様にニーズに合った曜日を選択する事が出来ます。

## らくじ会グループの取り組み 研修委員会

らくじ会グループでは利用者様により良い介護サービスを提供するため、また、グループ全体で情報の共有・統一を図るため、各施設の職員から構成された委員会があります。今回はらくじ会グループの取り組みとして、『研修委員会』の活動内容をご報告します。

研修委員会では、職員の介護者としてのレベルアップを目的とし、『介護技術研修』と『初任者研修』をそれぞれ年に4回実施しております。

《介護技術研修》6月25日 特養らくじ苑の会議室で本年度第1回目の職員研修が行われました。

前半は座学で介護の原理・原則やコミュニケーションを取る上での注意点、そして、移乗介助などで必要な「ボディメカニクス」の講習が行われました。また、後半では、前半で受講した内容を踏まえ、実例に基づいた介護実習を実施。研修委員の実演指導のもと2人1組で実習を行いました。

業務の合間を縫って受講する職員の様子は和やかながらも真剣そのもので、「説明も分かり易く、これからの業務に活かすことができる。」との声も多く寄せられました。



参加職員の感想 西大寺（正社員）K職員  
ボディメカニクスを利用した負担を軽減する介助方法など新たに知る部分もあり、役に立ちます。

この研修への参加は有意義なものでした。

《初任者研修》7月23日、らくじ会グループでの勤務1年未満の職員を主に対象とし、初任者研修を実施しました。講習内容は ①コミュニケーションの基本 ②高齢者とは？ ③ホスピタリティ（思いやり） となっており、高齢者介護の基本的な考え方・心構えを受講者に勉強してもらいました。

②の「高齢者とは？」では、高齢者疑似体験用具を使用し、実際に高齢者の五感を体験し、介護

を受ける方の気持ちを少しでも理解できるように工夫し、また、③の「ホスピタリティ」では、グループワークを行い、「らくじ会を利用されている方は何を期待しているか」という問いを考え、各グループで発表してもらいました。

参加職員の感想 白寿苑（パート）T職員  
未経験で介護の仕事を始めましたので、この機会に介護の基本的な勉強ができて、よかったです。

このような研修を受講するのは初めてという職員も多く、講義中は緊張している様子が伝わってきましたが、講習終了後では、「疑似体験で高齢者の特徴を自分の体で理解できて良かった。」などの感想が聞こえ、充実した研修であったことが窺えました。

今後も研修委員会では、利用者様のさらなる満足度を追求し、技術だけではなく心からのケアの大切さの理解を深め、らくじ会グループの職員一人一人のスキルアップを目指していきます。



# 今年で3年目！本場徳島での阿波踊りに 奈良県代表の一組みとして参加してきました！！

## 今年も参加！徳島市阿波踊り！！

今年も平成二十六年年度、『徳島市阿波踊り』に参加してきました！私たち『らくじ会グループ』が阿波踊りに参加するのは今年で3回目。年々参加も本格的になり、今年は総勢三〇名で参加し、『らくじ会グループ』単体での出場となりました。

## 徳島市阿波踊りとは

皆様も一度は耳にされたことがあると思われる『阿波踊り』。

しかし実際のところ、どのようなお祭りなのかご存知ない方もおられると思いますので、少しご紹介させていただきます。

『阿波踊り』の歴史は400年の歴史があるといわれています。

『阿波踊り』は『日本三大盆踊り』の一つで、夏季になると徳島県内各地の市町村で開催されます。その中でも『徳島市阿波踊り』は特に規模が大きく、八月十二日〜十五日の四日間約

130万人が観覧に来場されるとのこと。今年の来場者は台風の影響もあり、約114万人と例年よりやや少なかつたようです。

二拍子のお囃子と、「ヤットサー」、「ヤットヤット」の掛け声と共に、法被姿で躍動的な『男踊



り』(右の上写真)と、笠をかぶり華麗な踊りの『女踊り』(右の下写真)に分かれ踊ります。

らくじ会は全員『男踊り』を踊ります。

## 阿波踊りに向けて！

今年も参加人数も多く、練習段階から気合が入り、例年以上に一致団結。日々、練習に励みました。



六月には徳島から『娯茶平連』の岡連長が奈良まで踊りの指導に来て下さり、一気に踊りがレベルアップ。

本番前日まで、全員参加の合同練習を行いました。

## 徳島に到着！本番は目の前！！

当日は6時に奈良を出発。

徳島に着くとすぐに、聞きなれた二拍子のお囃子が耳に！他の参加者が、



あちらこちらで直前まで練習中！！

私たちはまず地元の

『徳島ラーメン』で腹

ごしらえ。

その後、本番に向け、

法被に着替え帯を締め、

足袋を履いて準備万端

テンションMAX！！



# 日本中のどこよりも熱い一日！ 大勢の人たちが集うなか、『らくじ会』 登場！！

## 一年ぶりの再会！！

今年も徳島の『社会福祉法人 東紅会』様の協力ののもと、『徳島市阿波踊り』に参加する機会を頂きました。

その『東紅会』の皆様と一年振りに合流し、本番に向けて更に気持ちが高まりました。(下の写真は『東紅会』様の皆様との一枚)



## いざ！阿波踊り本番！！

とうとう本番!!これまでに練習を重ね、培った技術を披露する時がやってきました。



阿波踊りは、踊りの会場である『演舞場』という場所で、踊りを披露します。

六ヶ所ある演舞場には『有料演舞場』が四か所、

『無料演舞場』が二か所あります。

当然、『有料演舞場』は踊りに対する観客の期待度も高く、毎年、限られた有名『連』(チームの事を「連」と呼びます。)のみ踊ることが許されています。

今回私たちが踊った演舞場は、二か所の有料演舞場。ひとつは、最大規模を誇る『藍場浜演舞場』(122m、8000人収容)と、眉山に向かって踊り込む『紺屋町演舞場』(104m、4500人収容)で踊りました。この二か所の演舞場は、地元徳島の連でも踊る機会が回ってこないらしい。

(高校野球でいう『甲子園』のような場所との事) まず一本目は『紺屋町演舞場』を18時過ぎにス



タート。(下の写真はその時のもの)

二本目は『藍場浜演舞場』を19時30分ごろスタート。

踊り始める時間で雰囲気が大きく変わり、日が沈みネオンが輝くと、演舞場は幻想的な空間になっていました。

心から「楽しい!!」と自然に思え、踊り終わると、みんな口々に「気持ちいい!!」と叫んでいました。

「来年は、もっと練習をして出よう!」とすでに来年に向け、らくじ会の阿波踊りは踊り出していました。(本当に楽しかった:阿波踊り最高!!)



# らくじ会グループでは季節の行事や節目のお祝いもすべて手作りです。

## ★苑内行事の紹介★

らくじ会グループでは、それぞれの施設で季節に応じた各行事を実施しております。

七月には七夕イベントがありました。七月に入るとフロアには大きな笹を飾ります。皆様で短冊に願い事を書き飾り付けをされました。当日には七夕のお話をさせて頂いたり人形劇や七夕クイズ、飾り作り等、賑やかに楽しめました。



また、七月七日の昼食には冷やしそうめんといか等、涼しさを感じて頂けるようお願いを込めて提供させて頂きました。おやつにも七夕特製のゼリーです。

皆様とても喜ばれておられました。七月七日、一年に一度織姫と彦星が会える日。来年も皆様で願いを込めてお祈りいたします。



## ★お砂ふみ★

今年より初めて『お砂ふみ』が行われました。『お砂ふみ』とは、各霊地の石のしるしを踏むことにより、四国八十八札所を巡拝したのと同じ御利益が受けられるそうです。

心を正しくし、合掌して、お砂踏みをし最後にお大師様の前で南無大師遍照金剛を3回お唱えしてお参りをされました。

今までにない試みをさせて頂き、入居者様も喜ばれ、また感極まって涙される方もおられました。次の機会では各施設へ足を運んで頂けることとことで、より多くの入居者様にぜひこの体験をしてもらえればと思います。



★奈良大文字送り火★

奈良の大文字送り火は戦没者慰霊と世界平和を祈る火の祭典と言われています。近年では東日本大震災など災害で亡くなられた人への追悼の意味も込められています。

また、行事の中心となる「大」の字は宇宙を意味するといわれており、「大」を形作る火床の数は、人間の煩惱と同じく百八ツあります。

らくじ会グループ統括施設長森山憲克は大文字焼き保存会の理事をしており、今年もらくじ会の職員とともに現地で一つずつ追悼の思いを込め点火作業を行いました。

なんとこの送り火を各施設の屋上より見ることが出来ます。皆様、屋上へ行かれ送り火に手を合わせて拝まれる方、何かを思いじっと見つめる方、様々な思いが感じられました。また来年も皆様と見に行きたいと思えます。



★納涼祭★

『特別養護老人ホームらくじ苑』では猛暑を少しでも和らげ、涼んで頂けるよう納涼週間を実施しています。納涼週間ではユニットごとに入浴時に清涼感タイプの入浴剤を入れ、色と香りを楽しんで頂いたり、入浴後に冷たい麦茶やラムネ、ゼリーを提供したりと納涼を感じて頂けるよう様々な事に取り組んでいます。

また八月十七日には苑全体で納涼祭を開催。ヨーヨー釣りや風鈴作り、冷たいドリンク、職員による太鼓の演奏、スイカ割り等盛りだくさんの企画で皆様に楽しんで頂きました。

一昨年までは苑の外で夏祭りを開催していましたが、暑さによる入居者様の体への負担を考慮し、外で開催する祭りは秋に、夏場の行事は館内で開催しています。入居者様にとっても夏の祭りはそれぞれ思い出深いもので、昔を思い出し懐かしむとともに存分に楽しんで頂けたと思います。ここ近年毎年のように夏の暑さは厳しさを増していますが、この季節をいかに快適に入居者様に過ごして頂くを日々考えております。



### ★職員交流会 (BBQ)

らくじ苑では、入居者様が快適に過ごして頂くことはもちろんの事ですが、同様に職員が快適に勤めてもらえる為に福利厚生にも力を入れております。今年度から各拠点の職員同士の交流にも力を入れ、六月、七月には各苑でバーベキュー大会を行いました。



イベントの主催はらくじ会広報交流委員会、バーベキュー以外にも様々な企画を今後予定して  
ます。

写真でもお分かりのように、バーベキューだけではなく、職員の子どもも参加し、スイカ割りも行い、家族を含めての交流企画となりました。

委員会の担当者を始め、多くの職員の協力もあり、



日程によっては雨に降られた事もありましたが、予定通りに事故なく無事に実施することもできました。また多くの職員ならびに家族にも参加をしてもらい、盛り上がり共

に有意義な交流が出来ました。

職員交流会は、勤務地や部署が違っても中々話す機会が少ない為、多くの職員同士が関わりを持つことを目的としています。

この機会を通して、一人でも多くの職員が「参加して良かった」「また、参加したい」と思ってもらえたのではと思います。

